おかやま文化振興ビジョン
（2018～2028）

2025改訂版

令和７(2025)年３月

岡　山　県

［ 目　　次 ］

Ⅰ　ビジョン改訂に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　1　これまでの経緯と改訂の趣旨
　2　位置付け
　3　対象範囲
　4　期　間

Ⅱ　文化振興の基本的視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　1　文化振興の基本的視点
　（1）自由な発想と主体的な文化活動の尊重
　（2）文化を創造し、享受することができる環境の整備
　（3）芸術家等の育成
　（4）県民の協働による文化の振興
　（5）将来の世代への文化の継承
　2　県の役割
　（1）県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり
　（2）県民文化の継承・発展
　（3）未来を創り、拓いていく担い手育成
　（4）「文化の力」の充実と活用
　（5）文化ネットワークの形成

Ⅲ　基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

Ⅳ　基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　1　文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山
　2　文化が地域の元気を生み出す岡山
　3　文化発信しながら交流を広げる岡山

Ⅴ　具体的施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
　1　文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山・・・・・・・・・・・・・・　9
　（1）将来の地域文化の担い手育成
　（2）県民参加による新たな文化の創造
　（3）県民の文化創造活動の振興
　（4）障害のある人の文化芸術活動の推進

２　文化が地域の元気を生み出す岡山 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
（１）伝統文化の保存・継承・発展
（２）文化の力を活用した地域の活性化
（３）地域資源としての文化の積極的な活用

３　文化発信しながら交流を広げる岡山 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
（１）文化による連携・交流の促進
（２）岡山からの文化発信

Ⅵ　**文化振興のための体制づくり** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
１ 文化行政推進体制の充実
２ 政策形成への民意の反映等

Ⅶ　**文化振興ビジョンにおける成果指標**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
１　文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

〔参考資料〕
１）　おかやま文化振興ビジョン（2018-2028）2025 改訂版　体系図・・・・・・ 23

Ⅰ　ビジョン改訂に当たって

１　これまでの経緯と改訂の趣旨

岡山県では、平成12（2000）年３月に21世紀を展望した「岡山県文化振興ビジョン」を策定し、平成18（2006）年３月には、県民の主体的な文化活動を尊重し、多様な主体との協働により、心豊かに生きることができる地域社会の実現を目指した「岡山県文化振興基本条例」を制定しました。そして、この条例制定を契機として、「おかやま文化振興ビジョン」を平成20（2008）年２月に新たに策定し、各種施策に取り組んできました。

また、県では、平成16（2004）年の「県立図書館」、平成17（2005）年の「天神山文化プラザ」、「ルネスホール」などの開館や「岡山県文化連盟」の創設などハード・ソフトの両面から施策を実施し、着実に成果を上げてきました。

さらに、平成22（2010）年秋に開催した「第25回国民文化祭・おかやま2010」（愛称：「あっ晴れ！おかやま国文祭」）では、これまで蓄積された岡山の文化を生かし、新しい文化の創造や発展に取り組むとともに、全国へ向けて岡山の文化を発信する大きな機会となりました。

一方、加速度的に進行している人口減少、特に急速な少子化の進行により、文化を担う人材の高齢化や、未来の地域文化を継承する人材の不足が顕在化しています。それに加え、文化活動の停滞を引き起こした新型コロナウイルス感染症の流行を原因とする、文化団体・文化人材の活動の停滞が継続するなど、文化を取り巻く社会情勢は劇的に深刻化しています。

令和７（2025）年度からの４年間の県政推進の羅針盤である「第４次晴れの国おかやま生き活きプラン」では、重点戦略として「安心で豊かさが実感できる地域の創造」を掲げ、その中で、文化活動に親しむ環境づくりなどを通じて、安心して豊かな心を育み、健やかな体力づくりを進めることができる地域の創造を目指すこととしています。

今回、こうした社会経済情勢等の変化を受け、あらためて浮かび上がった課題や取組等も踏まえながら、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくためにこのビジョンを改訂するものです。

２　位置付け

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第７条に定める「文化の振興に関する基本的な計画」としての役割を担うもので、長期的視点に立った今後の本県文化行政の施策の方向性を示すものです。

３　対象範囲

「文化」は様々に捉えられていますが、本ビジョンでは、岡山県文化振興基本条例に基づき、概ね次に掲げる芸術、生活文化、伝統文化などの各分野を対象としています。

さらに、文化の持つ力を活用した地域づくり・国際交流・産業振興・福祉・景観などの分野における取組も含めて検討しています。

（対象とする分野）

◇芸術（文学・音楽・美術・書道・写真・演劇・舞踊・工芸・デザインなど）、メディア芸術（映画・漫画・アニメーション・コンピュータなどを利用した芸術など）

◇生活文化（茶道・華道・囲碁・将棋・民芸・郷土料理・ファッションなど）、文字・活字文化

◇伝統文化（地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言など）

４　期　間

平成30（2018）年度から令和10（2028）年度までの11年間とします。

なお、令和４（2022）年度に中間見直しを、令和６（2024）年度に改訂を行い、内容を修正しています。

Ⅱ　文化振興の基本的視点

1　文化振興の基本的視点

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第３条に掲げた５つの基本理念を基本的な視点として策定します。

（１）自由な発想と主体的な文化活動の尊重

文化の創造は、芸術家のみならず、すべての人の創造活動により実現するものです。こうした人間の自由な精神に基づいた多様な創造活動は、個人の生活の質を高め、その個性や創造性を引き出す原動力になります。

こうしたことから、県民一人ひとりの自由な発想と主体的な文化活動が尊重され、すべての人が自由な発想を持って活動することにより、文化が活性化され、より豊かで特色ある創造的な地域文化が生まれるという視点を幅広く共有することが重要です。

（２）文化を創造し、享受することができる環境の整備

文化を創造し、享受することは、人々の生まれながらの権利です。県内どこに住んでいようと、誰もが等しく文化を創造し、享受することができる環境を整えていかなくてはなりません。

これまで、県内各地で公立文化施設等の整備が進められ、施設面では充実してきましたが、文化を享受する機会についてはまだ地域的に大きな開きがあります。

こうしたことから、文化に関する情報提供や各地域における文化を育む環境の整備を通じて、広く県民が様々な形の文化に触れ、文化の創造活動に参加できるとともに、創造性や個性を発揮しやすい環境をつくることが重要です。

（３）芸術家等の育成

多様で優れた文化を創造し、継承し、発展させていくためには、文化に関する創造活動に携わる芸術家をはじめ、文化施設や文化団体で企画・研究等を行う学芸員やアートマネジメント[※1]担当者、文化財等の保存技術保持者や研究者、伝統芸能の伝承者などの活動と相互の連携が欠かせません。

こうしたことから、これらの人々が活動成果を発表する機会の確保に加えて、文化に関する幅広い人材の育成・活用や資質向上のための研修等の充実を図ることが重要です。

※1 アートマネジメント：　文化施設の運営や文化団体の活動、あるいは、文化関係の催しに対し効果的で大きな成果をあげるための活動の総称。具体的には、企画制作、管理関係業務、広報活動、持続的に活動するための組織経営などが含まれます。

（４）県民の協働による文化の振興

文化は、地域の魅力を創造し、豊かな地域づくりの礎になるとともに、人々に精神的な豊かさや感動を与え、生きる力と喜びをもたらすなど、様々な面で私たちの生活を支えているものです。

文化の持つこのような力を人づくりや地域づくり、さらには地域産業の活性化に生かしていくことが必要です。

また、文化活動を行うＮＰＯ等の増加、大学と地域の連携、文化活動を支援する企業のメセナ活動など、行政以外の分野でも様々な取組が広がりつつあります。

こうしたことから、県民・文化団体・ＮＰＯ・企業・大学など、様々な主体と行政が、目標を共有しながら、その目標に向かって、ともに力を合わせて活動する文化の振興を進めていくことが重要です。

（５）将来の世代への文化の継承

地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言などの伝統文化は、人々の暮らしや生き方を支える基盤であるとともに、全国・世界に誇りうる貴重な財産です。また、これらの伝統文化は県民の誇りと心のよりどころであり、県民の活力を高め、新しい価値を創造する源であるとともに、将来の地域発展の基礎となるものです。

こうしたことから、県内各地の個性ある伝統文化や埋もれた文化資源を掘り起こし、県民共有の財産として尊重し、将来の世代に伝えていくことが重要です。

２　県の役割

県の役割は、地域における文化振興の総合的なコーディネーターとして、芸術家等の育成支援や、県民や民間団体等の主体的な文化活動が活発に行われるような環境づくりを図るとともに、子どもや若者をはじめとしたあらゆる人々が文化に親しみ、参画することで地域に文化が育まれる風土を醸成し、文化活動の成果が魅力的な地域づくりに生かされるよう努めていくことです。

このため、公益社団法人岡山県文化連盟（以下「岡山県文化連盟」という。）に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」※2の機能も活用しながら、次の役割に重点を置き、施策を推進していきます。

※2 おかやま文化芸術アソシエイツ：岡山県と岡山県文化連盟が同連盟内へ設置した、県内の文化団体等の活動支援やコーディネート、相談業務等を行う文化に関する総合窓口です。

（１）県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり

多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりや、県民が文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

（２）県民文化の継承・発展

これまで蓄積されてきた岡山の伝統的文化を取り入れながら、世代や分野を超えた新しい文化が創造され発展するよう取り組んでいくとともに、社会経済情勢等の変化により、文化芸術を取り巻く環境がどのような影響を受けても、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくよう努めます。

（３）未来を創り、拓いていく担い手育成

将来の岡山の文化を担う子どもや若者らが、様々な文化に興味を持ち、親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりを進め、文化活動の裾野の拡大を図るとともに、地域文化の担い手の育成を推進します。

さらに、未来を創り、拓いていく若手芸術家の育成にも努めます。

（４）「文化の力」の充実と活用

文化の持つ「人々を感動させ魅了する力」、「地域の魅力や価値を高める力」等に着目し、その力を高めて地域づくり・産業振興・福祉などに生かし、地域の活性化に努めます。

（５）文化ネットワークの形成

文化の持つ力を高め、文化活動を活発化させるため、人・もの・地域・情報を結びつける仕組みづくりに努めます。

Ⅲ　基本目標

「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

岡山県は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古代吉備からの長い歴史を通じて、人・もの・情報が活発に行き交う水陸の交通の要衝として栄えてきました。

そうした中で、先人が育み守り伝えてきた独自の文化と、時代ごとに新たに創造された文化とが交流し、融合する中で、岡山の文化を形成してきました。

今また、県民の自主的な文化活動や幅広い交流を図ることで、新しい文化が生み出されようとしています。

県民一人ひとりが岡山の文化に愛着心と誇りを持ち、県民の協働によって岡山の文化を継承・創造・発信しながら発展させていきます。そして、その豊かで特色ある岡山の文化が人々の心の豊かさや活力を一層向上させます。このような好循環が県民の自由な発想と活発な文化活動によって生み出され、岡山の文化の質がさらに高まっていくことを目指します。

Ⅳ　基本方針

１　文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

県民一人ひとりが文化を創造し、楽しみ、感動する機会を平等に得られることが大切です。そのためには、あらゆる県民が居住地域にかかわらず、創作活動に参加したり、鑑賞体験できる機会を充実させることが必要です。

また、若手芸術家への支援や文化サポーター※3の育成など、文化を創造し、支える人材の育成を図る必要があります。

このため、多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、各地域で文化の伝承・創造活動に参加できる環境づくりや、文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

２　文化が地域の元気を生み出す岡山

文化の持つ力は、県民の自信と活力を高め、新しい価値を創造する源であり、豊かな地域づくりに欠かすことができません。

また、地域固有の歴史と風土の中で育まれてきた伝統文化や、歴史的なまちなみ、集落や都市の景観、自然環境等は、県民の誇りと心のよりどころであり県民共有の財産です。

文化の持つ力でこれらの地域の魅力や価値をさらに掘り起こし、地域の特色や魅力を生かした取組を展開することで、観光や地域産業の活性化など、豊かな地域づくりにも文化の力を生かしていきます。

３　文化発信しながら交流を広げる岡山

古くから交通の結節点となって栄えてきた岡山の歴史が語るように、人・もの・情報が活発に行き交う時代と地域にあってこそ多様な文化が融合し、向上し、新しい文化が育まれます。

また、地域固有の文化は、人々の心を結びつけ、相互理解と連携を深める上で重要な役割を果たすとともに、郷土への愛着心を育みます。

このようなことから、それぞれの分野で活動する文化団体等がお互いに幅広い交流を行い、連携を深められるよう努めるとともに、岡山の魅力を伝える文化の積極的な発信と多様な文化の受信に取り組みます。

※3 文化サポーター：文化活動に主体的に参画する人や、文化イベントの支援を行うボランティアなど、文化活動に関与する県民を広く総称するものです。岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」において、文化サポーターの育成・支援や、相互のネットワークの構築を進めています。

Ⅴ　具体的施策

（施策体系）

- 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山
  - (1)　将来の地域文化の担い手育成
  - (2)　県民参加による新たな文化の創造
  - (3)　県民の文化創造活動の振興
  - (4)　障害のある人の文化芸術活動の推進
- 文化が地域の元気を生み出す岡山
  - (1)　伝統文化の保存・継承・発展
  - (2)　文化の力を活用した地域の活性化
  - (3)　地域資源としての文化の積極的な活用
- 文化発信しながら交流を広げる岡山
  - (1)　文化による連携・交流の促進
  - (2)　岡山からの文化発信

１ 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

（１）将来の地域文化の担い手育成

学校や地域において、子どもや若者が本物の文化に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を充実することにより、次世代の文化の担い手となる、心豊かな子どもや若者の育成を図ります。

（重点施策）

○郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実

岡山ゆかりの人物をわかりやすく紹介するガイドブックや文化財めぐりに便利なマップ等の作成、文化財に関する情報の整理・充実、インターネット等を活用した発信など、子どもや若者が、郷土の歴史や有形・無形の文化財に親しむ機会の充実を図ります。

○学校教育における文化活動の充実

「総合的な学習（探究）の時間」など様々な学習機会の場においてインターネット等もうまく活用しながら、芸術や伝統文化等に親しむ教育の充実や、児童生徒が発表する機会や優れた文化を鑑賞する機会の充実を図ります。

また、学校の各教科等の授業の活性化を図るため、音楽や美術等の指導を行う教員の資質向上を図るとともに、優れた地域の芸術家や文化活動の指導者などと教員が協力して、様々なプログラムを作成し指導ができる取組を促進し、学校における芸術教育や文化活動の充実を図ります。

○子どもや若者の文化活動の充実

民間団体等と連携しながら、子どもや若者を対象とした文化活動の場や機会の充実を図ります。また、文化・芸術の指導者や民俗芸能・伝統工芸などの継承者を講師とする学校出前講座の実施や、美術館、博物館などの文化施設や文化団体等によるアウトリーチ活動[※4]の充実を図るなど、優れた文化芸術に実際に触れる機会を創出することで、未来を担う子どもや若者の文化に対する豊かな感性を育む取組を促進します。

なお、学校の文化部活動の地域移行等については、将来にわたって生徒が継続的に文化芸術活動に親しめるよう地域クラブ活動の充実に取り組みます。また、移行に向けては、指導者や活動場所の確保、生徒・保護者などの理解を促進するための効果的な周知・広報の実施等、市町村や地域の文化芸術団体等の関係者と連携した取組を推進します。

※4 アウトリーチ活動：アウトリーチの本来の意味は、手を伸ばすこと。日頃、文化に触れる機会が少ない人々へ文化施設などが館外で行う普及活動をいいます。

○教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実

子どもに文化に関する指導を行う教員の資質の向上を図るため、県立博物館、県立美術館、古代吉備文化財センターなどの県立文化施設を活用した研修の充実を図ります。また、次代を担う学生等が多様な文化に触れる機会を増やし、心豊かで、地域への誇りと愛着心の醸成につながるような研修機会の充実を図ります。

○芸術系専門学科を有する高校や大学との連携

県立文化施設と県内の芸術系専門学科を有する高校や大学が、部活動、職場実習、出前講座などによる連携を通じ、新たな文化活動の創出、ネットワークの構築を図ります。

（２）県民参加による新たな文化の創造

県民による文化活動の充実を図るため、文化活動を担う人材及び団体等の育成及び活用に努めます。また、次世代を担う新進芸術家が活動成果を発表する機会の充実に努めます。

（重点施策）

○岡山県文化連盟の機能強化

岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」は、県内の文化団体等への相談・支援等の取組に大きな役割を果たしており、引き続き、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進する総合窓口としての機能の充実、強化を図ります。

○文化団体への活動支援

岡山県文化連盟、公益財団法人岡山県郷土文化財団（以下「岡山県郷土文化財団」という。）等と連携して、県内の文化団体が自らのレベルアップや活動の継続を支援するとともに、国や各種団体の各種助成制度等についての情報提供に努めます。

○アートマネジメントの推進

文化施設・文化団体の担当者、舞台技術者、学芸員などを対象に、企画制作、広報等資質向上のための研修や交流機会の充実を図ります。

また、地域における文化活動を支えていけるよう、企画、制作、演出などができる人材を育成するとともに、その人材を民間団体、ＮＰＯ等が有効に活用できるような仕組みを構築します。

〇文化サポーターの育成

県内各地で展開される、分野や世代を超えた活発な文化活動を様々な形でサポートする人材を育成、活用し、今後の充実した文化活動へと結びつけます。

〇芸術家等の創造活動への支援

地元の芸術家等による創造活動を支援するため、市町村や地域住民と協力しながら、おかやま県民文化祭をはじめとした活動の場の充実に努めます。

また、次の世代を担う若手芸術家を育成するため、新進美術家を対象とした岡山県新進美術家育成「Ｉ氏賞」を活用するなど本県ゆかりの若手芸術家の発表の場を提供するよう努めます。

（３）県民の文化創造活動の振興

広く県民が、身近なところで文化についての理解及び関心を高め、質の高い文化を鑑賞するとともに、文化の創造活動に参加できるような環境の整備を進め、優れた地域文化の形成に努めます。

（重点施策）

〇文化施設の利用促進・機能強化

県立美術館、県立博物館、天神山文化プラザ、ルネスホール、県立図書館、県立記録資料館などの文化施設の利用促進に努めるとともにコロナ禍により培った経験等も踏まえ、安全で安心して過ごすことができる環境を整えます。

また、すべての人々に利用しやすく多様なサービスを効率的に提供できる地域の文化の拠点となるよう、学芸員や職員の研修の充実、資料のデジタル化、外国語表記の充実など、様々な手法を活用し文化施設の機能強化を図ります。

さらに、県民が身近に文化活動を行うことができる場の充実を図るため、学校の空き教室や廃校施設、歴史的建造物、公共空間、商店街の空き店舗等、地域の文化資源についても、県民や地域の文化関係者の文化活動への幅広い利用を促進します。

〇質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供

広く県民が多様な文化に親しみ新しい価値に出会うことができるよう、県立美術館、県立博物館等においては、郷土ゆかりの資料の収集に努め、充実した展示を行うとともに、多くの人が文化に気軽に親しみ鑑賞できる企画展を開催します。

また、国や公益法人等が行う支援制度の活用や民間団体、ＮＰＯ等による公演等への支援を通じて多くの県民が国内外の質の高い美術や舞台芸術等を鑑賞できる機会の充実を図るとともに、デジタルアートなど、新しい分野の鑑賞

機会の提供にも取り組みます。
　さらに、社会のデジタル化が急速に進展していることを踏まえ、あらゆる人々が、文化芸術に興味・関心を持つきっかけとなるよう、オンライン配信はもとより、ＶＲ（仮想現実）、ＡＲ（拡張現実）などの先端技術の活用も検討します。

○文化に関する情報提供の充実

　文化の情報拠点機能を持つ天神山文化プラザ等において、各種文化情報の収集に努めるとともに、その情報は、新聞やテレビ、ラジオなどのマスメディアや、ＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等を用いて広く県内外に対し発信します。
　また、県内の文化団体や文化施設等が持つ情報を総合的に集約・発信し、誰もが本県の文化に関する情報を容易に入手できるよう、ホームページやＳＮＳ等の内容を充実させるなど、効果的な情報提供に努めます。

○おかやま県民文化祭の充実

　県民の文化への関心や、県内各地の文化活動の取組を根付かせ、伝統ある地域文化や新たに創造された特色ある文化を県民が身近に感じられる機会を提供するため、県民との協働によるおかやま県民文化祭の充実に努めます。

（４）障害のある人の文化芸術活動の推進

　障害のある人が文化に親しむことは、交流の拡大・生きがい・生活の充実等につながるものです。障害のある人が、文化芸術活動を行い、鑑賞することのできる環境づくりに取り組みます。

（重点施策）

○障害のある人の文化芸術活動の推進

　障害のある人が、自身の文化芸術活動を発表する場の充実を図るとともに、障害の有無にかかわらず文化に親しみ、障害のある人とない人が共に文化芸術活動を行うことができる環境づくりに努めます。

○文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等

　博物館、美術館等における文化公演や展示等において、字幕や音声案内サービスの提供等、障害のある人のニーズに応じた合理的配慮が提供されるように努めます。

２　文化が地域の元気を生み出す岡山

（１）伝統文化の保存・継承・発展

本県には、「岡山後楽園」「吉備津神社」「旧閑谷学校」などの文化財や、「備前焼」「備前刀」などの伝統工芸、「備中神楽」「白石踊」「横仙歌舞伎」などの伝統芸能など全国に誇る豊かな伝統文化があります。

このような穏やかで恵み豊かな自然・風土が、古代吉備以来、各時代に多彩な文化を育んできた本県の歴史を物語る文化遺産を、県民共有の財産として適切に保存し、その中に含まれる先人の知恵を汲み出し、本質を学び、そして次世代に継承するとともに、今に生きる文化として発展させ、積極的な活用を図ります。

（重点施策）

○民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用

地域の祭り、民俗芸能、伝統行事、伝統工芸技術、先人が日常生活の中で伝えてきた知恵などを保存・継承をするための調査や記録保存、発信を推進するとともに、伝統工芸展や民俗芸能の祭典等の発表機会への参加促進や、後継者の育成、保存団体のネットワーク化を推進します。

○古代吉備文化遺産の保存・活用

古代吉備の豊かな文化遺産を体感できるよう、文化遺産の特性や適切な保存に配慮しつつ、積極的な活用を行い、県民が歴史や文化に触れ、親しむ機会を充実します。そのため、県・市町村が連携して、主要な遺跡や建造物等の文化遺産の保存・活用を図ります。

さらに、地域の文化財保護団体との連携によるボランティアの育成・活用など、文化財保護活動の充実を図ります。

○郷土の誇る先人顕彰の推進

様々な分野における郷土の先人の功績をたたえ次世代に伝え、学びや新たな創造を促すため、先人の功績の記録・顕彰、遺品・資料・作品の収集及び公開を推進します。

○ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援

「日本の書道文化」など、後世に伝えていくべき無形文化を、ユネスコ無形文化遺産に登録する活動の支援に努めます。

（２）文化の力を活用した地域の活性化

地域の風土に根ざし、先人が守り伝えてきた様々な伝統文化や、地域固有の全国に誇りうる文化資源を改めて認識し、市町村、民間団体、ＮＰＯ、大学等と連携しながら、特色ある文化資源や新たな創造活動等を活用し、文化の力による地域のにぎわいの創出を促進します。

（重点施策）

○地域固有の文化資源の掘り起こし

伝統文化、優れた景観、地域の歴史を素材とした文化活動などは、再評価や有効活用により、地域を特徴づけるシンボルとなります。

このような県内各地に存在する特色ある文化資源を幅広く掘り起こし、ブランド化を図り、地域づくりに生かしていきます。

○文化による地域のイメージアップとにぎわい創出

文化を核とした地域づくりを推進するため、地域の文化資源を生かした取組を行っている団体やＮＰＯ等を支援します。また、アートイベントに必要な企画力、コーディネート力等のスキルを備えた人材育成などを通じ、文化による地域のにぎわい創出を図ります。

○国内外のアーティストの地域への受け入れ

地域の作家や住民、ＮＰＯ、市町村などが主体となり、国内外のアーティストを招へいして、地域資源を活用したアートイベントやアーティスト・イン・レジデンス[※5]等を行い、今まで気づかなかった地域の魅力の再発見に繋げていきます。

○美しく魅力ある景観づくりの推進

地域に残る歴史的な建造物や魅力ある町並み、美しい自然、調和の取れた集落や都市の景観は、人々の情緒・感性を豊かにし、潤いと安らぎを人々に与えます。

このような地域が誇る風景や自然、地域の特色ある生活などの文化資源を活用した美しく魅力ある景観づくりを推進します。

○歴史・自然を生かした豊かな「くらし文化」[※6]の振興

各地に伝わる祭り、行事、郷土料理など人々の生活により形作られてきた衣

※5 アーティスト・イン・レジデンス：アーティストを招聘し、滞在期間中に作品を制作してもらうこと、また、それらの活動を支援することをいいます。

※6 くらし文化：瀬戸内海に面した岡山ならではのばら寿司や、備中杜氏の技術に支えられた酒などの食文化、各地に伝わる特色ある伝統行事などをいいます。

食住に関わる「くらし文化」は、本県の自然、歴史、伝統、また農業をはじめとする産業にも根ざした重要な資源であり、未来への継承に努めるとともに、その魅力を国内外へ発信していきます。

〇国際的なアートイベントとの連携

国際的なアートイベントは、本県の文化シーンに新たな魅力を付け加え、国内外からの観光客の増加をもたらします。このため、アートイベントとの連携を十分に図るとともに、その効果が、県内に広く波及し、相乗効果が上がるよう取り組みます。

（３）地域資源としての文化の積極的な活用

地域の文化資源に内在する先人の英知や創造性などを活用して、繊維産業・観光産業をはじめ、文化財等の情報を効果的に発信し、文化を通じて地域の魅力を高めます。

（重点施策）

〇繊維産業の振興

伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を生かし、技術開発や人材育成、産地ブランド化を総合的に推進し、生活文化であるファッションに大きく寄与している繊維産業を伝統分野から高度先端分野まで幅広く対応できる産業へ飛躍させる取組を進めます。

〇観光産業の振興

伝統文化や産業文化遺産、建築文化遺産などの地域ならではの文化資源を適切に保存・継承し、これらの文化資源や文化芸術イベントなど、地域の特色や魅力を生かした取組を行います。こうした取組を通じて、自然や文化をオンリーワンの観光資源として、積極的な活用に努めます。

また、文化振興と観光振興部門の連携を図ることにより、地域文化の魅力を伝える観光や、観光ＰＲを活用した地域文化の情報発信を促進します。

〇文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用

豊かな歴史を象徴する文化財や歴史的建造物などの文化遺産を、その特性や適切な保存に配慮しつつ、広く県民が親しむことができるよう公開・活用します。

また、有形・無形の文化資源を観光・産業振興等に活用するための取組を進めます。

〇日本遺産の魅力発信

本県の歴史的魅力にあふれた文化財や伝統文化をわかりやすくストーリー

化した「日本遺産[※7]」の魅力を県内外に発信していくことにより、地域の活性化を図ります。

３　文化発信しながら交流を広げる岡山

（１）文化による連携・交流の促進

文化の交流を通じ、地域の文化活動の活発化や人々の相互理解を深めるため、県内各地の特色ある文化、伝統行事など地域の特色ある文化資源を活用した地域間交流や、世界の様々な地域の人々との交流を促進します。

（重点施策）

○文化ネットワークの形成

芸術家や、文化団体、ＮＰＯ、ボランティアなどの文化に関わる多様な主体が活動できる環境をサポートするため、研修機会の充実を図るとともに、官民での情報交換や交流を通じて文化活動の運営や企画を支える人材のネットワークづくりを推進します。

また、アーツカウンシル・ネットワーク[※8]など全国各地にある団体とのつながりの場を活用しながら、先進事例の情報収集や情報共有を行います。

○国内文化交流の促進

世代や分野を超えた文化団体や人々の交流の広がりを通じて、県内外の文化交流や全国大会への参加を促進するとともに、文化関係の全国大会や中四国大会などの誘致を推進します。

○国際文化交流の促進

文化施設における外国語表記を充実させ、県内在住の外国人や外国人旅行者が本県の文化に親しみやすい環境づくりを推進します。

また、文化団体、ＮＰＯ等が行う海外の芸術家による取組を支援します。

※7 日本遺産：文化・伝統を語るストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を総合的かつ一体として活用し、地域活性化を図ることを目的としています。

※8 アーツカウンシル・ネットワーク：独立行政法人日本芸術文化振興会と全国各地のアーツカウンシル機能（専門家による助言、審査、評価、調査研究等の機能）を有する組織である「地域アーツカウンシル」の連携・交流ネットワークです。それぞれの課題やノウハウを共有することで、連携を促進し、わが国の地域における文化芸術の推進体制の構築、発展を図ることを目的としています。おかやま文化芸術アソシエイツは、アーツカウンシル・ネットワークに加入しています。

（２）岡山からの文化発信

国内外における岡山の認知度を高めるため、メディア等の効果的な活用や人的交流を通じて、伝統文化から現代文化まで、多様な文化の魅力の国内外へ向けた積極的な発信を推進します。

（重点施策）

〇文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信

美術品や文化財など様々な文化に関する情報について、デジタル技術を活用したアーカイブ化による記録・保存に取り組むとともに、インターネット等を活用した情報発信を推進します。

〇ソーシャルメディア等の活用による魅力発信

文化情報を集約するポータルサイトや、ＳＮＳなど、それぞれの媒体の特性を生かしながら、本県の文化資源や文化プログラムなどを効果的に国内外に情報発信します。

〇おかやま独自の文化発信

本県の文化を積極的に発信する取組を通じ、県民に本県の魅力を再認識してもらうとともに、他県に在住している本県出身者の郷土愛を高め、岡山の文化の素晴らしさを共有できるよう努めます。

また、国内外における岡山の認知度を高め、県民が岡山の文化に愛着心と誇りが持てるような岡山ならではの文化発信に努めます。

Ⅵ 文化振興のための体制づくり

１ 文化行政推進体制の充実

文化の分野の広がりや文化振興の多様化を踏まえ、県の各部局の緊密な連携・協力により、文化の総合的なコーディネーターとしての役割を担えるよう、総合的な文化振興を推進するとともに、文化活動の調査・分析などの支援に努めます。

また、岡山県郷土文化財団や岡山県文化連盟をはじめ、芸術家・文化団体・ＮＰＯ・企業・大学・市町村など本県の文化を担う多様な主体との連携を一層強化していきます。

さらに、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進するため、岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」の充実、強化に取り組みます。

２ 政策形成への民意の反映等

文化行政を推進する上で、県民の多様なニーズを把握することが重要であることから、文化の振興に関する施策形成や事業実施に際して、文化振興審議会の意見聴取、有識者等の積極的活用による県民の多様な意見の反映に努めます。

また、県全体の事業について選択と集中を図る中、文化振興の施策についても適切な評価を行い、支援の重点化と効率化を図る必要があることから、文化振興審議会の意見も聴きながら事業効果の把握に努め、各施策を評価し、事業実施に反映します。

Ⅶ　文化振興ビジョンにおける成果指標

【基本方針】

１　文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
文化施設利用者数	483,612人	402,730人	419,000人	505,000人
（説明）県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館及び閑谷学校の利用者数				

【重点施策】

（1）将来の地域文化の担い手育成

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	2,592人	2,500人	2,600人
（説明）授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数				
子どもみらい塾講師派遣回数	406回	300回	530回	530回
（説明）岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数				
優れた芸術を鑑賞した学校数《累計》	668校 (～H28)	1,614校 (～R5)	1,800校 (～R9)	2,000校 (～R10)
（説明）県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累計				
アウトリーチ活動実施回数	39回	28回	29回	29回
（説明）県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数				

（2）県民参加による新たな文化の創造

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数《累計》	―	714件 (～R5)	1,000件 (～R9)	1,000件 (～R10)
（説明）おかやま文化芸術アソシエイツ(H29.7.31設立)への相談件数の累計				
県が実施するアートマネジメント講座修了者数《累計》	69人 (～H28)	151人 (～R5)	220人 (～R9)	220人 (～R10)
（説明）県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計				

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
県立美術館ボランティア数	89人	100人	100人	110人
（説明）県立美術館に登録しているボランティア数				
岡山県美術展覧会への応募点数	3,296点	2,130点	3,300点	3,300点
（説明）岡山県美術展覧会へ一般応募された作品（日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻）の点数				

（３）県民の文化創造活動の振興

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
文化施設利用者数【再掲】	483,612人	402,730人	419,000人	505,000人
（説明）県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館及び閑谷学校の利用者数				
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数	25,697件	83,993件	51,000件	143,000件
（説明）県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数				
県民文化祭参加者数	370,978人	401,223人	215,000人	215,000人
（説明）おかやま県民文化祭への総参加者数				
おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数	―	174件	190件	190件
（説明）おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数				
文化芸術に関わった（自ら実践・直接鑑賞した）人の割合【新規】	―	42.4% (R6調査値)	43.9%	45%
（説明）文化芸術に関わった（自ら実践・直接鑑賞した）人の割合				

【基本方針】

2　文化が地域の元気を生み出す岡山

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数《累計》	69人 (～H28)	665人 (～R5)	950人 (～R9)	950人 (～R10)
（説明）おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計				

【重点施策】

（1）伝統文化の保存・継承・発展

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
日本伝統工芸展への応募点数	116点	52点	70点	70点
（説明）日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数				
登録文化財の登録件数《累計》	275件 (～H28)	359件 (～R5)	367件 (～R9)	419件 (～R10)
（説明）登録文化財の登録件数の累計				

（2）文化の力を活用した地域の活性化

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	118団体	310団体	270団体	310団体
（説明）おかやま県民文化祭地域フェスティバル（備前・備中・美作）の実行委員会に参加した団体数				

【基本方針】

3　文化発信しながら交流を広げる岡山

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
文化施設ホームページアクセス件数	360,035件	1,438,303件	1,039,000件	1,142,000件
（説明）県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数				

【重点施策】

（1）文化による連携・交流の促進

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数《累計》	—	1,088人 (～R5)	1,500人 (～R9)	1500人 (～R10)
（説明）おかやま文化芸術アソシエイツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ（H29年度開始）受講者数の累計				
国民文化祭への派遣団体数	8団体	4団体	10団体	10団体
（説明）国民文化祭への派遣団体数				

（2）岡山からの文化発信

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ９年度 (2027)	目標値 R10年度 (2028)
県内文化団体･施設が持つ情報を集約･発信するホームページのアクセス数【再掲】	25,697件	83,993件	51,000件	143,000件
（説明）県内文化団体･施設が持つ情報を集約･発信するホームページのアクセス数				
県立美術館インスタグラムのフォロワー数《累計》	—	4,076人 (～R5)	5,000人 (～R9)	7,000人 (～R10)
（説明）県立美術館のインスタグラム（H30年度開設）のフォロワー数の累計				

【参考指標】

指　　標　　名	H29策定時数値 (2017)	現状値 Ｒ５年度実績 (2023)	目標値 Ｒ６年度 (2024)	目標値 R10年度 (2028)
外国人延べ宿泊者数	133,082人	331,710人	487,000人	620,000人
（説明）観光庁「宿泊旅行統計調査」（暦年調査）による外国人延べ宿泊者数				
観光入込客数	1,433万人	1,566万人	1,600万人	1,759万人
（説明）観光庁「観光入込客統計」（暦年調査）による観光入込客数				
後楽園の入園者数	744,039人	781,575人	850,000人	900,000人
（説明）後楽園の入園者数				

1）おかやま文化振興ビジョン（2018-2028） 2025改訂版 体系図

岡山県文化振興基本条例 文化振興の基本的視点

基本目標 人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山

基本方針	施策の方向性	重点施策
1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山	(1) 将来の地域文化の担い手育成	① 郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実 ② 学校教育における文化活動の充実 ③ 子どもや若者の文化活動の充実 ④ 教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実 ⑤ 芸術系専門学科を有する高校や大学との連携
	(2) 県民参加による新たな文化の創造	① 岡山県文化連盟の機能強化 ② 文化団体への活動支援 ③ アートマネジメントの推進 ④ 文化サポーターの育成 ⑤ 芸術家等の創造活動への支援
	(3) 県民の文化創造活動の振興	① 文化施設の利用促進・機能強化 ② 質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供 ③ 文化に関する情報提供の充実 ④ おかやま県民文化祭の充実
	(4) 障害のある人の文化芸術活動の推進	① 障害のある人の文化芸術活動の推進 ② 文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等
2 文化が地域の元気を生み出す岡山	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	① 民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用 ② 古代吉備文化遺産の保存・活用 ③ 郷土の誇る先人顕彰の推進 ④ ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援
	(2) 文化の力を活用した地域の活性化	① 地域固有の文化資源の掘り起こし ② 文化による地域のイメージアップとにぎわい創出 ③ 国内外のアーティストの地域への受け入れ ④ 美しく魅力ある景観づくりの推進 ⑤ 歴史・自然を生かした豊かな「くらし文化」の振興 ⑥ 国際的なアートイベントとの連携
	(3) 地域資源としての文化の積極的な活用	① 繊維産業の振興 ② 観光産業の振興 ③ 文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用 ④ 日本遺産の魅力発信
3 文化発信しながら交流を広げる岡山	(1) 文化による連携・交流の促進	① 文化ネットワークの形成 ② 国内文化交流の促進 ③ 国際文化交流の促進
	(2) 岡山からの文化発信	① 文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信 ② ソーシャルメディア等の活用による魅力発信 ③ おかやま独自の文化発信